

「近隣の自然の変化に目を向ける No. 4:

春を彩る代表的な花 ツツジ Azalea, star of spring flowers」

2020年4月20日

主の御名を賛美します。

今回は、春を彩る代表的な花 ツツジに目を向けます。仙川教会の最寄りの駅の一つが京王線のつつじヶ丘で、近くには多種多様なつつじを見せてくれる西沢つつじ園があります。写真は最近撮影した芦花公園近くのものですが、上段3種は、自然のまま咲いている素朴で清楚なツツジ。

2段目のドウダンツツジの和名が灯台ツツジと知って、灯台ファンの私は興奮した。しかし、名前は、筒型の花が、結び灯り台という宮中の夜間の行事に使われる灯り台を思わせるからだと言う。満点の星という素敵な別名がある。木の周りに白い花が咲きそろうた姿がその名の通りだ。中段の他の2種は、形が美しいツツジで、品種改良されたもののようだ。

下段の3種はオオムラサキという園芸品種で、それぞれニックネームが付けられている。学名には Rhododendron という文字が入っていますが、サツキ（皐月）もシャクナゲ（石楠花）も同じです。つまり同種なのです。だから、品種改良が可能で他種多様な花が愛好家だけでなく、公園などで見られるわけです。

http://sengawacx.com/LookNatureN04_2020.jpg

自然は日々変化しています。春は花々が爆発的に咲き、心弾む季節を実感する時ですが、昨今オーバーシュートという言葉が、微小な異物の爆発的増加をさす意味で使われているので気持ちが揺れます。Covid-19の猛威に世界中が翻弄され、苦戦を強いられています。勝利するために今すべき事は何でしょうか？既にご承知かと思えます。いつどこで感染するか分からない曲者ウイルスなので、特效薬ができ、退治法が確立するまでは、自分と他を守るために、外出控えることです。単純でありながら人間の本性と生きる必要を満たす行動にブレーキをかけることなので、実は難しいのです。それではガマン？いや、自他の命を守る行為であり、相互のつながり（関係）を生かすにはどうすれば良いのか考え、あきらめず、試行錯誤しながら関係を築く方法を創り出す時であると思われています。

そのためのエネルギーをどこから得るのか？それもこの度与えられている課題であるが、自然と向き合う中で得られると私は信じています。人も自然の一部であり、自然界の命との触れあいの中で癒やされ、活力を得、生きる目的に向かう根源的力を得ることができると考えているからです。しかし、活力の前に家族が生活していくための米びつが底をついていると言われるかも知れません。ここでは、生活を営む人間の命と働きを支えるものについて述べています。

次回では、拡大増加を続けるウイルスの国内外の感染者数のデータと、いわゆる軽症の感染者の体験談を紹介したいと思います。